

[特別支援教育]

○切れ目ない指導・支援の充実

今年度は、特別支援学級に在籍する児童生徒と通級による指導を受ける児童生徒への「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の作成・活用をお願いしてきました。管内では、特別支援学級の児童生徒の両計画については全員に作成し、通級による指導を受けている児童生徒は入級次第随時、作成していただきました。しかし、作成することが本来の目的ではありません。右記の視点などで、学期や学年などのまとまりで確認したり、書き加えたりすることでその子に合った指導・支援をより充実させていくことができます。一年間の指導・支援の振り返りの時期となりました。次学年や進学先への引き継ぎ資料として、両計画を活用してください。

- ☆指導目標の達成状況
- ☆指導内容は適していたか
- ☆改善が見られたか
- ☆有効な支援は何だったか

[特別の教科 道徳]

○考え、議論しながら価値理解に迫る授業の実施

明確な指導観をもち、価値理解を基に自己の生き方についての考えを深めることを意識した道徳科の授業が多く見られました。しかし、中心発問について考えさせるだけにとどまり、ねらいの達成にもう一步踏み込めていない場面もありました。そこで必要になってくるのが補助発問や支援です。児童生徒のものの見方や考え方に対して、「主人公ではなく、友達はどう思ったのかな?」「その後、どうなったと思う?」と視点や時系列を変えて問いかけたり、「本当にそうなの?」と常識や当たり前を改めて問い直したりして考えを深めることが大切です。よりよい授業づくりに向け、児童生徒の発言を想定し、どのような補助発問や支援をするのか構想しておく必要があります。考え、議論する道徳の授業実践のために、事務所ウェブページに掲載中の「構想メモ」を引き続き活用してください。

[外国語活動・外国語]

○中学校区での情報共有

中学校区で相互に授業参観をしたり、情報交換の場をもったりして、指導方法や活動内容について情報を共有するなど、小小連携や小中連携の取組が進められ、小中学校のより円滑な接続を意識した指導が多く見られました。今後も中学校区内で「CAN-DOリスト」を共有するなど、学びの連続性を意識した指導をお願いします。

○伝え合う言語活動を取り入れた授業の実施

計画訪問や指定校の公開授業では、実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動が多く見られました。その中で、文法、語彙などの知識の習得に重点が置かれたり、やり取りがパターン化されたりして、児童生徒の思考が働いていない活動も見られました。今後は、目的・場面・状況を明確にして実際の場面で活用できる言語活動を取り入れるなど、より一層の充実した指導をお願いします。



家庭教育支援に関する事業

【生涯学習係】

生涯学習係では、教育支援事業を行う上での具体的な課題を把握するため、管内の園・学校職員から見た「家庭教育」に関する課題について調査しました。

「家庭の教育力調査」 吾妻教育事務所生涯学習係
調査期間：平成30年12月26日～平成31年2月1日
対象：園・学校職員（95名）

調査の結果、スマホ、携帯電話、テレビ、ゲームなどが子どもに及ぼしている悪影響に関心が低い家庭やその対応に困っている家庭があるのではないかという声が一番多くありました。また、SNS上のトラブルへの対応も学校に求められていることが分かりました。

そこで、平成31年度（令和元年度）は「ゲーム・メディア」を切り口とした家庭教育支援事業を開催することにしました。